

# 指導事例

場所： 木更津市立金田小学校

学年： 5年

教科： 社会

単元名：これからの食料生産とわたしたち

関連する学習指導要領の内容

内容（２）イ（ア）我が国の農業等における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食糧生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現する。

目標

日本で食べられている豆の多くが輸入に頼っていることや、給食で使われている食材の産地を知り、日本の食料生産の現状を理解する。また、食料生産や地産地消と自分たちの生活との関わりについて考え、自分の考えを持つことができる。

使用教材：小学生向け学習読本『おまめのはなし』【発行：（公財）日本豆類協会】

豆実物（16種類）

指導者：T1 5年生担任 宇田川楓花、T2 栄養教諭 坂井幸栄

## 【前回授業】

私たちの食生活が変化して、日本の食料自給率は昔に比べかなり低くなっている。日本の食料は、輸入にたよるものが増え、農業・水産業等では、従事する人が減っているのも課題となっている。実際に私たちの食生活はどのようなものとなっているのか、日ごろ家で食べている食事の写真を撮って、確認してみよう。

## 【本授業】

概要：

	学習活動	児童の反応	資料
導入 10分	事前に撮影した、家庭で食べている食事の画像をみんなで見る。  前時までの学習を振り返る。日本の米作り、水産業の課題を思い出す。  本時の学習課題	自分の食事だけではなく、友達 の食事写真を見て、その内容に どんな傾向があるのか気づく。  米の消費量、水産業に携わる人 が減少している、自給率が低迷 しているなどの課題があるこ とを復習する。  給食とも関連付ける。	各自タブレットで撮 影した画像
	食生活の変化による食材の輸入について知ろう		

<p>展開 25分</p>	<p>学校で食べている給食の使用食材の産地を調べてみる。</p> <p>今年、給食で食べた豆料理を思い出し、その豆の産地について、考える。</p> <p>副読本を見ながら、豆がどこから日本に届くのかを知る。</p> <p>各班で、豆の本物を観察し、どんな種類があるのかを知る。</p> <p>今日の給食のチリコンカンにはどんな豆が使われているのか、T2から聞く。</p>	<p>献立表、給食について記載がある学校のホームページで産地を示すキーワードを見つける。</p> <p>豆は、種類によって産地は国産も外国産も流通していること、たくさんの種類があり、その食べ方は様々。国によって様々な食文化があることに気づく。</p> <p>ひよこ豆、レンズ豆といった100%輸入している豆もあることを知る。</p> <p>豆の実物触ったり、模様を見たり、大きさを比べたり、友達の見聞も聞く。</p> <p>3種類の豆(ひよこ豆、レッドキドニー、マロファットピース)が輸入物であることを知る。</p>	<p>Web サイト 金田小学校ホームページ</p> <p>献立表、給食写真 おまめのはなし 世界地図</p> <p>豆実物 16種類 プリント</p> <p>世界地図</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>豆も他の食品と同じように、国産もあるが、外国から輸入しているものもあることを確認する。食べてみたい豆を選ぶ。</p> <p>授業後に豆のプレゼントがある。</p>	<p>食料自給率の向上が日本の課題ではあるが、外国との関わりも不可欠なことに気づく。食べてみたい豆を各自記入する。</p> <p>16種類の中から1種類だけ、家に持ち帰れる。</p>	<p>プリント</p> <p>豆のプレゼント</p>

### 【授業後の展開】

当日の給食は、コッペパン・牛乳・チリコンカン・ABCスープ・ヨーグルトで、「チリコンカン」には、外国産のひよこ豆【アメリカ産】、レッドキドニー【アメリカ産】・マロファットピース【カナダ産】の3種類の豆を使用した。食生活の中でなじみのある大豆とのちがいについてもふれ、学校給食での豆を教材に、食料の生産や地産地消と自分たちの生活とのかかわりについて、考えさせた。